

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙	第	号
------	-----	---	---

氏 名 境 康太郎

論 文 題 目

Is there any association between retroperitoneal lymphadenectomy and survival benefit in advanced stage epithelial ovarian carcinoma patients?

(進行性卵巣癌患者における後腹膜リンパ節郭清は生存延長に寄与するか?)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委 員

小寺 泰弘



名古屋大学教授

委 員

柳野 正人



名古屋大学教授

委 員

中村 孝丸



名古屋大学教授

指導教授

吉川 史隆



論文審査の結果の要旨

今回、最大残存腫瘍径が 1cm 以下まで減量することができたオプティマル手術を施行した進行性卵巢癌症例を集積し、系統的後腹膜リンパ節郭清の生存延長効果に関する後方視的解析を行った。統計解析の結果、系統的後腹膜リンパ節郭清は進行性卵巢癌患者の無病生存期間、全生存期間に影響を与えないという結論に至った。ただし、今回の研究の結果から、直ちに系統的後腹膜リンパ節郭清を省略可能であるという結論には達してはおらず、系統的後腹膜リンパ節郭清にはたしかにそれに伴う有害合併症もあれば予後を改善する可能性もあり、今後さらなる大規模前方視的研究が行われることを期待する。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 今回の研究では、2 群間における手術時間、術中の出血量、術後合併症の検討はおこなっていない。ただそれらは系統的後腹膜リンパ節郭清の治療的意義を考えることにおいて重要な項目であり、今後検討していきたい。
2. 系統的後腹膜リンパ節郭清を省略する判断基準として、高齢、内科的重大合併症、高度肥満症例などがあるが、厳密に定まった基準はない。今回の研究は他施設共同研究であり、系統的後腹膜リンパ節郭清の施行の判断は各病院の基準にしたがっているのが現状である。ただ、系統的後腹膜リンパ節郭清の術式自体は、骨盤内リンパ節郭清と左腎静脈の高さまでの傍大動脈リンパ節郭清と卵巢がん治療ガイドラインでも定められており、各施設で差異はないと考える。
3. 腫瘍因子では、進行期が最も予後と相関する。組織型では、粘液性腺癌や明細胞腺癌が化学療法に低感受性であることなどから、他の組織型と比べると予後不良である。組織学的分化度も重要な予後因子であり、分化が低いほど予後が不良である。治療因子では、手術の完遂度が重要な予後因子であり、すなわち術後の残存腫瘍径は化学療法に対する反応性や平均生存期間に影響を与える。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙2

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第	号	氏名	境 康太郎
試験担当者	主査	小寺泰弘	柳野み	中野芳
	指導教授	吉川史隆		

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 2群間での手術時間、術中出血量、術後合併症の有無の検討について
2. 他施設での系統的後腹膜リンパ節郭清の施行の判断と術式について
3. 卵巣癌の臨床病理学的予後因子について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、産婦人科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。

別紙 3

学力審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第	号	氏 名	境 康太郎
学 力 審 査 担 当 者	主 査	小寺 泰弘	柳田 正人	中野 功
	指導教授	吉川 史隆		
<p>(学力審査の結果の要旨)</p> <p>名古屋大学学位規程第 10 条第 3 項に基づく学力審査を実施した結果、大学院医学系研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力を有するものと学位審査委員合議の上判定した。</p>				